

団体名 糸満市立米須小学校	連絡先 TEL : 098-997-4511 Eメール : komesu@komesus.city.itoman.okinawa.jp
-------------------------	--

1 実践事項 (2)

タイトル : 「米須小 教師も子どもも 日々 Update」

2 実践内容

(1) 方策1 「日常化する」 質的授業改善

- ①校内研究では、職員研修や講師招聘研修を通して、深い学びの実現に向けて「指導と評価の一体化」に授業改善に取り組んだ。
- ②指導主事補をお招きして、国語の授業づくりと学級経営について研修を行い授業改善を図った。
- ③タブレットを活用して、ふり返りの入力と活用、次の授業へつなぐ授業展開を図った。
- ④単元を通して計画的に、指導と評価の一体化の視点を持った「ふり返り」を実施した。

(2) 方策2 「そろえる」 組織的实践

- ①自立した学習に向けて、本校独自の取組である自学自習「GOけてぶれ+」(GO=目標設定、+プラス=できるようになったことに着目してふり返る)について、職員と児童、保護者で共有理解を図るため、ポスター掲示とホームページ掲載を行い取組定着を図った。
- ②学力推進用の掲示板を設置し、児童が取り組んだノートを掲示板に張り出し、お手本になる取組例の共有とお手本として貼られ認められる場を創設した。
- ③標準学力調査、全国学調、学びのたしかめの結果を分析して、個々の課題の把握した。保護者との連携を図るために、個人面談で個々の学習状況の説明し、個に応じた補充問題を実施した。
- ④年2回(6月、12月～2月)の学力強化旬間を設け、全職員体制で朝学習の時間に指導し、過去の問題で学習の定着を促し、模擬テストの実施・分析から定着度を把握し、個々の落込みを補った。

(3) 方策3 「支える」 発達の支援

- ①月に1回委員会活動の時間を設定し、児童が活動の見通しを持ったり、活動をふり返ったりしてキャリアの視点である「かふやみ」を取り入れながら、自主的な活動になるように取り組んだ。
- ②課題のある児童(不登校・登校しぶり・問題行動等)への理解に向けて、大度分校と連携して愛着障害等の文献を基に専門性を高める校内研修を行い、本校分校のチーム体制で対応した。
- ③ケンケンパロードや二重とびジャンプ台を設置し、子どもたちが進んでやりたくなるような環境整備を行い、子ども達も進んで運動に取り組んでいる様子が見られる。
- ④子ども達の活動や良い行いを紹介するモニターと掲示板を新設し、子ども達を承認する場を設定し、日常の学校生活や善い行い、がんばる姿にクローズアップできるようにしている。

(4) 方策4 「見通す」 学校組織マネジメント

- ①年間サイクルを基にして、学力強化期間や体育的行事の期間、教育相談・個人面談など時期ごとの注力ポイントを意識して、期間毎にメリハリをつけて取り組んでいる。
- ②全国学調や学びの確かめ、学力検査等の結果を分析し、個に応じた学力保障の取組と本校の重点事項に沿った全国学調報告書アイデア例の活用資料を作成し授業改善につなげた。

(5) 方策5 「つなぐ」 学校連携・地域連携

- ①小中連携では、Googleクラスルームを活用して、オンデマンド方式で授業参観を行った。
- ③中学校校区の校内研修授業へ参加し、お互いに授業を参観し合い、学校間の課題や実践について情報共有し連携を図った。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

〈方策①〉

授業づくりについて研修



〈方策②〉

学力強化期間は全職員体制



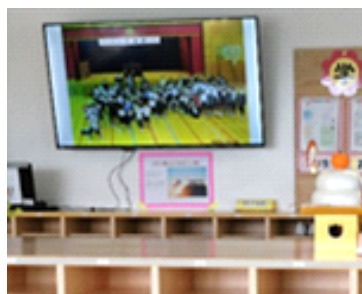
お手本を紹介してみんなで共有



〈方策③〉

けんけんぱロードで競う児童

学校生活や頑張りを振り返るモニター

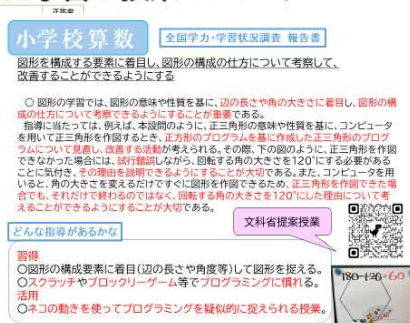
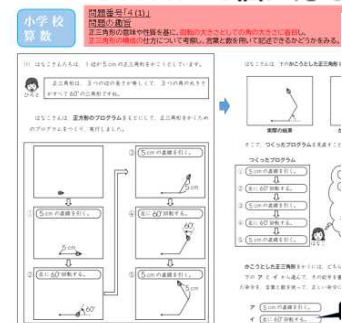


〈方策④〉

PDC Aサイクルで個に応じた学習&授業アップデート

〈方策⑤〉

中学校区で授業参観と情報交換



4 成果

- 校内研を通して、学習指導要領や国の参考資料、県施策等について繰り返し研修を重ねたことで、「見方・考え方」を意識した手立てが見られるようになり、研究協議でもその視点で授業を見ている振り返る教師が増えてきて、「指導と評価の一体化」を意識した授業づくりに迫ることができた。
- 自学自習の取組では、テストに向けた学習をしたりや授業の復習をしたりと、見通しを持ち計画的に学習する児童も見られるようになってきた。
- かふやみを意識した委員会活動の実施やよい行動を紹介する看板を設置し承認する機会を設けたことで、子ども達が自ら考えて地域のゴミ拾いをしたり、児童会主催の異学年交流会を計画提案したりと主体的に行動する児童の姿が見られるようになった。

5 課題

- 自学自習の取り組みでは、学級・児童間で取組に差があるので、共通実践を図っていきたい。
- 指導と評価の一体化の授業づくりでは、発問や手立ての工夫など評価規準を踏まえた授業改善が進んできた。学習保障の観点でも、全職員で共通理解を図り、実効性のある取組を推進していきたい。